

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の「愛情を持って根気良く、そして上品に」をもとに、事業所として「いつもそばにいるよ」を掲げ、利用者ひとりひとりにきめ細かく対応し、地域でその人らしく過ごせるよう対応している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族及び関係者に毎月、園だよりを発送している。園だよりは毎月の利用者の様子を中心に、わかりやすく編集することを心がけている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とあいさつすることを心がけている。園での行事等をできるだけご案内する。来園を歓迎する。平成20年7月19日に園でバイオリンコンサートを開催し、近隣の人も来られた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事に参加したり、周辺の清掃活動など地域と良好な関係を築いている。また、近所の保育所などからも訪問があったり、多くのボランティアがホームを訪れるなど、地域の理解が進んでいる。	

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	無料相談窓口(ほっと！安心介護相談所)を作り、暮らしの相談に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について職員で話し合い改善につなげている。自己評価については評価票をもとに全職員で検討している。また、今回の結果についても全職員で検討し、理解を深めていく予定である。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域ボランティア、法人の弁護士の参加で運営推進会議が行われている。行事案内や、ホームの取り組み状況などの報告が行われ、避難訓練への参加などの提案をしている。	○	地域行事の参加や行政の積極的な参加の呼びかけにより、地域の中での更なる理解につなげられるよう努力する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の活動にも積極的に参加をし、良好な関係を築いている。運営推進会議の議事録などを持参し状況報告をおこなっている。また、日々の苦情質問や困難事例の相談など事あるごとに電話や面談を行ったり、情報の収集を図るなど密に連携している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	平成18年より和歌山県人権尊重の社会づくり協定を結ぶ。関係機関からの資料を参考に、職員研修を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については毎月のカンファレンスの時に繰り返し研修している。毎日の利用者の様子を記録に残し、虐待防止に努めている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてゆっくり説明している。 具体的に細部にわたって説明し、理解を得て、納得してもらっている。 気軽に気持ちよく、ご質問していただけるよう心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、記入してもらい、内容を把握している。 家族さんが来園された時にご要望を聞かせてもらっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪の多い家族については直接様子などを伝え、毎月行事や入居者の写真が載った園だよりを送るとともに、電話でも健康状態などを含めお知らせしている。 事あるごとに写真を取り、それぞれの入居者のアルバムとして保存されており、家族に見てもらい日々の様子を確認いただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見や要望を積極的に聞き出すようにしており、桜まつり、七夕、忘年会など年に3度家族や関係者と共に行われる大きな行事の時に、家族からの声を聞き、意見交換をし、運営に反映し、お互いの理解を深めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、給料日に職員から意見を聞き、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に応じて、医者の指示に従い、職員と話し合いのうえ、勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員からの要望をよく聞き、離職の無い様努めている。勤務異動は行わず、園長のみならず、理事長が毎月職員との面談を行い、要望や悩みを聞き穏やかなケアに繋がるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職員に伝え、希望者が参加できるように配慮している。毎月のミーティング時には実技を含めた研修が行われ職員の質の向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報交換が行われ、行事案内は職員に伝え参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員も含め、月に1回以上食事会を行い、自由に意見交換できる場を設定している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士やケアマネジャー等の資格をとれるよう働きかけ、前向きに努力してもらっている。職員が資格取得のためには、勤務体制も工夫し、職場で応援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけてゆっくりと話を聞き、繰り返し繰り返し話しあう。本人に安心してもらおうよう努めている。	○ 気軽に相談できるように努力する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけてゆっくりと話を聞き、繰り返し繰り返し話しあう。家族に安心してもらおうよう努めている。	○ 気軽に相談できるように努力する。

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面は週2回の往診あり。 歯科医、耳鼻科も往診あり。 薬の配達あり、。職員が管理している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が慣れるまでの間職員が寄り添い対応できるように、職員体制を工夫している。また、家族に対しても入居時の不安を取り除くためのアフターフォローをしっかりとおこない、信頼関係を築いており、安心して入居できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝の掃除は、入居者の出来ることを中心に全員で行うようにしており、日々の雑事を職員と共に行っている。 梅を漬けたりウッドデッキの園芸の水やりなど入居者の知識から学ぶことも多く、対話を重ねながら支え合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や本人の状況等を話し合い、いい関係を築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の思い違いの無いように細かく配慮している。 面会に来られない家族とは電話で状況報告をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後の部屋替えは行わない。アルバムや仏壇等も大切に扱っている。 アルバムには園での写真を加えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の争いもなく、仲よしである。 ボスを作らぬよう気を配っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院につき退所扱いになっても、退院後のサービス利用の相談に乗っている。 退院後、介助付きマンション等を紹介し、ケアマネージャー等への連絡も密に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畳部屋で一緒に過ごしたり、日々の会話で思いや希望を収集し、ミニカンファレンスで情報を共有し本人本位のケアに繋げている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活内容を家族や友人から聞く。 以前のサービス利用票等を見せてもらっている。 今まで利用している医療関係の情報については関係者と相談している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自の生活パターンをきちんと把握しており、自由に過ごせるよう援助している。 徘徊と異食癖の利用者について、落ち着いてもらえるよう職員一同協力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る出来ないシートをもとに、一人ひとりの思いに沿って介護計画が作成され、来訪時の家族の思いや、職員の意見を反映し作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態や、入居者、家族の思いについては、定期的に3ヶ月に一度カンファレンスを実施している。また、日々のミニカンファレンスや、月のミーティングにおいても把握している。介護計画の見直しについては定期的に6か月に一度おこなっているが、状況の変化があった場合は現状に即して、すぐに見直しをおこなっている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日録、日報等の記録を役立てている。 毎朝の申し送りにおいて情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院への送迎や、洋服など個別の要望に沿った買い物の同行など利用者の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア インターンシップ 近隣農家から野菜や果物のプレゼントあり。 警察、消防、民生委員、教育機関(高等学校)の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業者のサービスは福祉用具、マッサージ、散髪屋さん等を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	紙おむつの無料支給の利用で地域包括支援センターと協働している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を踏まえかかりつけ医が決めている。 主治医の協力のもとに協力病院を確保しており、ホームには主治医の往診や看護師の訪問がある。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期にはホームで出来る限りの対応を行う方向ではある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉遣い、プライバシーへの認識を絶えず喚起し、誇りを損なわないように注意している。個人情報については事務所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴、散歩、レク等についても、ゆっくりと意思表示ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の言葉遣い、プライバシーへの認識を絶えず喚起し、誇りを損なわないように注意している。個人情報については事務所に保管している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほとんどの利用者が園に来てくれる理容師を利用しているが、デパートの美容室へ行く人もあり、援助している。ボランディアの美顔エステも行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、その日の様子によって入居者に決めてもらい、全員が何らかの動きに加わるように支援し、食事を楽しみ事として大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや紅茶、おやつ等については好みに合わせているが、たばこは禁止している。好みのもを一人ひとりの状況に合わせて、楽しんでもらっている。 ※実際にたばこを吸う利用者の入所はなかった。	

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見てトイレ誘導をし、おむつはずしに取り組んでいる。昼、夜のおむつの種類を変えて使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前午後、就寝前の入浴それぞれの希望に沿って支援をしている。入浴拒否の人にもタイミングを見て入浴につなげ、週に3回をめぐりに支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡したい利用者についての支援も十分行っている。夏、冬の居室の温度調節も細かく管理している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1階のウッドデッキには様々な園芸ポットがあり、水やりを楽しんだり実ったイチゴを採りみんなで楽しんでいる。男性の入居者は監督係りがかって出るなど、和気あいあいと日々が流れている。ボランティアとの交流の中では、ペットボトルのキャップ集めや、謡曲は聴くだけにとどまらず、お稽古事としても楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額は本人が持っている。買い物や喫茶の時、金銭管理のできる人にはしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前から続く風土記の丘は、四季折々の木々が楽しめ、天気の良い日の散歩が日常的な行事となっている。近くの喫茶店を利用するなど入居者の外出支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回(3・4回)は必ず行っている。ホテルにて(さくら祭り、七夕祭り、忘年会)家族同伴で行っている。またそれ以外にも、近くの喫茶店でお茶を楽しむ。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取り次ぎや手紙は渡している。 電話をしたいと希望した場合は、家族に電話をかけて本人に取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問については自由にできている。 面会者名簿の記入はしてもらっている。 自室でのお茶、おやつサービスも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人や家族の承認を得て、車いすの安全ベルトのみ使用している利用者がいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はされておらず、職員も鍵をかけない支援を理解し、出かけたときには一緒に出かける体制にあり、自由な生活に繋げている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊のある利用者にも職員全員で声かけをし、見守っている。 夜間は定期的に部屋の様子を巡回している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具、ハサミ等も自室で保管の利用者もいる。 利用者は見守りの中で上記のものを使用する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の研修及び利用者にも避難訓練をしている。 防火、避難訓練を行った。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料を作成し、定期的に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度は避難訓練を行い、夜間の心構えについては常に職員に伝えている。運営推進会議では非常時備蓄の話が出るなど関心をもっており、近隣へ協力依頼をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が来園の時、リスクについて対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック以外にも、少しの異常でも医師に相談している。 医師に電話相談で訪看が入り、点滴や心電図を取ったりし、万全の対策に取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からそのたびに説明を受け、全職員に伝えている。 定期投薬、臨時投薬、および薬の保管については徹底して管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、記録を行い、便秘対策に取り組んでいる。水分補給には特に気配りをしている。 便秘のきつい場合は医師に相談する。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者の状態に応じた口腔ケア用具を使用して口腔ケアをしている。 歯ブラシの使用出来ない利用者は職員が口腔ケアを行っている。職員に歯科衛生士がおり、口腔ケアの個別指導を行っている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士から時々アドバイスを得ながら栄養バランスを考えた食事の提供に配慮している。食事摂取量を記録し、水分補給については特に配慮し、掲示物で利用者に水分補給を促している。また、常時、お茶を自由に飲めるようにしている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員の研修を行っている。利用者の食前の手の消毒を実施している。嘔吐、下痢のあった場合、(原因が分からないため)一応、汚れ物は廃棄処分している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い機を使用。食材は冷蔵庫の中に入れる。賞味期限に注意する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ウッドデッキにプランターで花を育てている。ウサギの人形を置いて楽しい雰囲気づくりをしている。紀伊風土記の丘へウォーキングに来た人が立ち寄ってくれている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには腰高板が貼られ、木のぬくもりが感じられます。様々な行事の写真が2階への階段一杯に掲示され、来訪者は入居者の笑顔に迎えられるような工夫をしている。入居者と職員が冬瓜や南京に顔をつけてマスコットにしたり、水槽には熱帯魚が泳ぎ、ウッドデッキで育った花が活けられ、温かで豊かな生活をおくっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも廊下の横等にソファを置いている。ソファに動物の人形を置いて楽しく過ごせるようにしている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使い慣れた箆箆や鏡台など大切な家具が持ち込まれ、また思い出の写真を飾り、出来るだけ入居者が考えた居室空間に演出されるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に温度計を配置し、温度調節を行っている。朝、夕の換気をする。においは全くない。訪問者も「ここは、においがいい」と感心している。換気、掃除、保清に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインを取り入れて、廊下、トイレ、各室の手すり、テーブルの高さも3段階に分けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の電灯は、昔ながらの方法を採用し、スイッチではなく、紐で引っ張ってつけたり消したりできるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにプランターで花やイチゴを育てて楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

N o. 92については、職員の見守りで外へ出る。単独では出かける事はない。

天候の許す限り、AM又は夕方、外気浴を行っている。

寝る前に、ほぼ毎日全員が足浴を行っている。(入浴実施日を除いた毎日)